



亀中だより

No.45 令和4年度最終号

令和5年3月17日 文責：岡田



あなたはアリか、それともキリギリスか… イソップ寓話「アリとキリギリス」から学ぶ



イソップ寓話「アリとキリギリス」を知っていますか。なんとなく知っているという人が多いのではないのでしょうか。まずは、一般的なあらすじをご紹介します。

ある夏の日、キリギリスは得意なバイオリンを弾き、歌を歌って楽しく過ごしていました。そこへ通りがかったのは、食べ物をせっせと運ぶアリたちの行列。

不思議に思ったキリギリスはアリたちに尋ねます。「何をしているの？」

するとアリたちはこう答えます。

「食べ物がなくなってしまう冬のために、食べ物を集めているのだよ」

それを聞いたキリギリスは笑います。

「まだ夏なのに！夏の間は楽しく歌って過ごせばいいのに」

キリギリスはそれからバイオリンを弾き、歌って過ごし、アリたちは食料を集め続けました。やがて秋が来て、だんだん森の虫たちも減って寂しくなりましたが、キリギリスはまだ歌っていました。

冬になり、食べ物がなくて困ったキリギリスは、暖かそうな家を見つけます。それは夏の日に笑っていた、食糧を運んでいたアリたちの家でした…。

さて、物語の結末は…

原作では、お腹をすかせたキリギリスは、アリに食べ物を分けてほしいと頼みます。しかし、アリたちは「夏の間、歌っていたなら、冬は踊って過ごしたら？」と切り捨てて、キリギリスはお腹を空かせたまま、凍えて死んでしまうというお話です。

しかし、それではあまりにも残酷だということで、アリがキリギリスを助けるアレンジをした物語が主流になったそうです。キリギリスはアリに感謝し、真面目に働くことの大切さを知るとともに、翌年からまじめに働くようになるというものです。

さて、進級を目の前にしたみなさん、あなたはこれからの一年をどちらのように過ごすでしょうか。特に三年生になるみなさんには、しっかりと蓄えをもって自分の進路目標に向かってほしいと思います。なにしろ冬になって、アリのお家を訪ねても“進路を切り開く学力”は分けてもらえませんからね。

ただ、その一方でキリギリスの生き方が、すべてダメなものでもないと思いたいのです。なぜなら、キリギリスは2~3年を土の中で眠って過ごした卵から春にふ化し、その生涯は11月には終えるのです。つまり、そもそも本当のキリギリスは冬を越えられない生き物なのです。キリギリスが「限られた生を、楽しみながら懸命に生きている」ととらえることもできるのではないのでしょうか。

中学生のみなさんには、**アリのように「長い人生を計画的に、力を蓄えながら歩む力」とキリギリスのように「今しかないこの瞬間を懸命に生きる力」**の両方を持ってほしいものです。進級おめでとう！